

令和2年度第2回板橋区環境教育推進協議会 意見回答一覧表

No.	資料	意見・質問	回答・対応
1		・授業実践 第9学年 家庭科「生活と環境の関わり」について 授業者の先生の「振り返り」で「第1学年から第3学年までを貫いた単元構築が難しいと感じていたが、実践してみて、単元配列を工夫することができると感じた」とありますが、もう少し、踏み込んだ記述があると良いと思います。	家庭科の各学年の単元では、学年ごとの指導事項があります。各学年の単元を「環境」をテーマにして関連させていくには、単元配列を再編成し、予め年間指導計画に位置付けるなど、カリキュラム・マネジメントを図ることが必要です。 今後、研究してまいります。
2		・授業実践 幼稚園 4・5歳児「秋の自然に興味・関心をもつ(壁飾り作り)」について 「自然と対話する幼児の姿が素晴らしい」「幼児が活動を楽しみに楽しみにするような活動計画全体の工夫」など素晴らしい取組と思います。	本単元だけでなく、日頃の教育活動全体を充実させることで、幼児が次の活動を楽しみにするようになりました。幼児の主体的な活動が増え、自然に対する気付きや発見をする姿につながることができました。
3		・授業実践 第5学年 社会科「わたしたちの生活と森林」について 取組を評価したいと思います。「データ資料や写真を意図的に出すようにした」という取組は、まさに授業づくりは「企て」という授業デザインと考えております。	今後も引き続き推進してまいります。
4	【カリキュラム部会活動報告】	・授業実践 第5学年 社会科「わたしたちの生活と森林」について 児童から環境への問いが次々と沸き上がったということですが、先生方の正確で鋭い視点があってこそ児童の振り返りを導くことができたのではないのでしょうか。森林破壊が生物の生態系にもたらす影響を児童たちが学べたことは実に素晴らしいと思います。 私は、環境に対する危機感を共有することが環境問題に対する出発点だと認識しています。 もちろん過度の危機感を煽り怯えさせてもいけません。児童が将来地球規模の視点を身に着けたときに、それまで培った知見により的確な環境破壊を防ぐための危機意識を持つことは大切だと考えます。そのためにも教育課程とはそぐわないかもしれませんが、「高度な知性を持つはずの人間が地球を破壊している」という危機感を子供たちにメッセージとして将来的に伝わるプログラムを活動の中に盛り込んでいただければと思います。	「環境に対する危機感を共有することが環境問題に対する出発点」は、本単元で授業者がねらっていた価値の一つでした。 環境問題は、実は自分たちの生活とは遠い出来事のように捉えている児童も少なくはありません。 今後は、知識や思考だけに留まらず、学習から得たことから、自分たちができることを実践していく姿を育めるようにするなど、教育活動を工夫してまいります。
5		・今後の方向性について 「自分ごととして捉えさせる」課題から「単発的な授業時間ではなく、教科や単元全体を関連させる」という課題に集約されたことは素晴らしいです。今後の展開を期待しております。	今後も引き続き推進してまいります。
6		令和2年度取組はSDG sの目標を上手に活用したことで、子供たちにとってより具体的で理解しやすい活動になったと思います。	SDG sの理念は、今後の教育活動にとって重要な目標であると捉えております。今後もSDG sの目標を授業実践に生かしてまいります。

No.	資料	意見・質問	回答・対応
7	【カリキュラム部会活動報告】	<p>環境教育において、SDGsとの関連づけをカリキュラム開発において配慮されていることについて、評価いたします。</p> <p>特に、自然災害と防災との関連づけからアプローチしたところが良い切り口であると思います。本内容については、国際的な鍵概念〈resilience〉をどのように考えるか、という点が教育実践上のポイントであると思います。この際の〈回復・復元力〉といった観点で、ハード面だけでなく、そこに住む住民の〈心の復興〉をどのように考えるか、被災者の心に寄り添えるような優しい心を育む教育を期待します。</p> <p>SDGsのゴール15は、森林だけでなく、陸上の生物多様性の保全が本質にあります。子どもの発達段階に合わせて、取り上げる内容を（自分の身の回り→地域環境→社会環境→地球環境）と広げていくこと、そして生物同士のつながり、生物と自分とのつながりを実感できるような実践展開を期待します。</p> <p>加えて、「Act」に移す具現化 という今後の方向性を期待します。</p>	<p>環境課題を解決に向けた行動「Act」の実現には、児童・生徒が、身近な生活場面から、まず行動することが大切です。</p> <p>その上で、単に行動するだけでなく、児童・生徒の発達段階に合わせて、自分の行動が、周囲や社会にどのような影響や効果があるのかについて、振り返ることも重要だと考えます。</p> <p>今後、児童・生徒が生物多様性、環境に対する「resilience」（回復）について幅広く考え、捉えていけるよう、教材や授業の工夫に努めてまいります。</p>
8		<p>時代の変化に合わせて、コンテンツのデジタル化の可能性を検討することに賛成いたします。今の子どもたちは、生まれた時からデジタルネイティブであるため、子どもたちのほうが詳しい場合も他地域で報告されています。板橋区の学校教員がどれくらいIT化に対応できているのか、必要な教員研修が実施されているのか、何か課題に直面してことがあるか、可能な範囲で教えて頂けると幸いです（デジタル教材の整備状況についても）。</p> <p>加えて、特にユネスコスクールでは、学校間ネットワーク活動が推奨されています。区内外の学校とオンラインでつないで教育交流するなどの可能性が期待されていますので、今後ご検討いただけますと幸いです。</p>	<p>「自然災害と防災」の授業では、ICT機器の活用に重点を置いた授業を行いました。</p> <p>本区では、令和3年3月より児童・生徒は一人一台端末を活用した活動、家庭学習等を段階的にスタートしていくこととなり、令和3年9月より各校のWEB環境が整備され、オンラインなどによる学習が可能となる予定です。</p> <p>今後は、教員や児童・生徒も含め、端末を自由自在に活用できるようになることが必要です。</p> <p>習熟が進むことにより、将来的には、学校間、児童・生徒間の交流もICT機器の活用により、さらに身近なものになると考えます。</p>
9	【プログラム部会活動報告】	<p>4月から中学校の教科書が変わることに関して、検索システムを見直して体制を整備したことは素晴らしいです。</p>	<p>環境教育プログラムは、今後も、検索性の向上を図るとともに動画の掲載など魅力的なコンテンツの提供に努めてまいります。</p>
10		<p>今回リニューアルされた環境教育プログラムは、環境学習の経験の少ない保育園などの指導者に対して、いかに有用なツールを提供できるかというところに重点を置かれたことを高く評価します。今後さらに充実していかれることに期待します。</p>	

令和2年度第2回板橋区環境教育推進協議会 意見回答一覧表

No.	資料	意見・質問	回答・対応
11	【プログラム部会活動報告】	環境教育プログラムの中には、「振り返り」というものはないのでしょうか？ そもそも環境委教育とは一般教育とは異なり、得た知識への評価はありませんが、子供たちに「知識を与え」⇒「意識をさせ」⇒「行動に変える」ものだと 思っています。 せっかく素晴らしいテキストを作成してカリキュラムを受けているのですから、教育を受けた子供たちが「どのような目標を立て」、「どのような行動をし」、「目標を達成したか」の振り返りが出来たら良いと思 います。 例えば1学年ごとに振り返りを行えば、子供たちの意識の変化や成長も見れるのではと思 いました。	環境教育プログラムは、各プログラムにおいて、振り返りの時間を設けています。学習（または体験）した子どもたちが、気づいたことを発表・共有することで、自分自身の行動と結びつけられるような構成になっています。今後も環境教育プログラムを活用し、子どもたちに学習の場を提供してまいります。
12	【専門部会の今後】	統合について賛成です。	統合後の環境教育実践研究部会では、「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」及び「板橋区環境教育プログラム」の実践に関する研究を進めていくことにより、乳幼児期からの取組も含めた“保幼小中一貫”の環境教育を強化していくとともに、児童館やあいキッズなどへも展開し、複層的に推進してまいります。
13		保幼小中一貫で推進するにあたり「複層的な環境教育」の推進を期待しております。	
14		2つの部会を統合し、「実践」と「人材育成」に重きを置いた「実践研究部会」とすることを高く評価します。 また、幼稚園、保育園など、幼児期からの取組により一層力を注いでいかれることも大きな飛躍へとつながると期待します。	
15		保幼小中一貫の環境教育の強化の方向性に賛成いたします。加えて、板橋区の地域特性の関連性を検討し、特色ある学びづくりにチャレンジされることを期待します。	
16		環境教育を推進していくうえで、エコポリスセンターが担っていく部分は大きい。今後の新しい部会においては、エコポリスセンターが、積極的に議論に加わるようにしてほしい。児童館やあいキッズなどで実践している経験を生かしてほしい。	
17	その他	今後、エコポリスセンターを、板橋区の「SDGsの教育」の社会教育拠点として、発展的にコンテンツを拡充されることを期待します。また、今年に入り、脱炭素化の流れが加速してきました。次回のイギリスグラスゴーで延期開催されるCOP26に向けて、環境政策・エネルギー政策の転換が行われる兆しがあります。こうした流れと関連付けて、これからの「持続可能な板橋」地域のための学びとして、環境教育・環境学習が機能することを期待します。	国の「カーボンニュートラル宣言」や東京都の「ゼロエミッション東京戦略」との整合を図りながら、2050年までに脱炭素社会を実現するため、現在、板橋区では、「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」の策定を進めており、地球温暖化対策と親和性の高いSDGsの理念のもと、気候変動への緩和策と適応策を兼ね備えた地球温暖化防止に向けた取組を実践・継続してまいります。「ESD及びSDGsの視点を踏まえた環境教育の実践」や「アウトリーチ＆オンラインによる環境教育の実践」などの具体的な施策を掲げ、エコポリスセンターを拠点として積極的に取り組んでまいります。